

所報 研究所だより

教育・しまんと

令和6年度
NO. 4

発行 四万十市教育研究所

四万十市国見 222 番地
Tel/Fax (0880) 37-2817
ふれあい学級(0880) 31-1130

★ 二学期がスタート！

中学校は、8/28から、小学校は9/2から二学期がスタートしています。ただ、台風10号の影響で、中学校は8/29、30が「臨時休校」となりました。両日はふれあい学級も同様の対応を取り「閉所」したことでした。

さて、それぞれの学校には、少し日焼けをし、たくましさを感じさせる子ども達の歓声が戻ってきたのではないかと思います。

今年の夏休みも真夏日や猛暑日が続き、熱中症等を含めて、体調管理に気を配りながらの日々ではなかったかと思えます。

台風が過ぎ、9月になってからもその傾向に大きな変化はなく、暑い日が続くことが想定されます。引き続き健康管理に留意しながら、教育活動を推進していく日々になると思えます。

9月の第二週からは、体育祭・運動会、教育文化展、そして各教科の「授業づくり講座」や指定研究の発表会等々、各種行事が計画されています。

児童生徒の安心・安全を確保するとともに、教職員の体調管理にも留意しながら、教育活動の実践、充実に努めていただきたいと思います。

今学期も教育研究所の研修会、諸行事等にご支援ご協力いただきますよう、よろしく願いいたします。

★「教育講演会」から

少し時間が経過しましたが、8月2日(金)の午後日程で開催した教育講演会では、人財教育家・メンタルコーチ等の肩書を持っておられる飯山暁朗さんを講師に迎え、『やる気を引き出す関わり方』という演題のもと、四万十市の教育課題のひとつである「不登校及び不登校傾向」等、近年増加傾向にある「配慮の必要な子ども達」への支援等に向けて、「児童理解」をより深めていくための関わり方をメインテーマとして、貴重な実践の数々をご教授いただきました。

この時期、研修会等が重なる中、午前中の夏季研修会に引き続いて、数多くの先生方の参加を

得て、無事開催することができました。ご協力に感謝申し上げます。

飯山さんの講演内容につきましては、録音・録画等が、講師の都合でNGでしたので、昨年度のようにテープ起こしを行い、グループウェア及び教育研究所のHPで公開することはできませんでした。

ただ、この後、各校からの振り返りを下記に記載しますので、各学校におかれましては、二学期以降の職員会や校内研究会等々の場で、ともに振り返っていただきながら、日々の教育実践に生かしていただければと思います。

講演会当日の久保教育長さんのご挨拶や講師紹介の濱口副会長さん、さらに閉会行事で飯山さんへの謝辞及び閉会挨拶をしていただいた弘瀬会長さんも触れられていたように、「飯山さんだからできたこと」とかという視点に陥らず、それぞれの学校の教育実践に生かすことができる「エキス」を吸収していただいて、教職員一人ひとりの意識改革に繋がり、二学期以降の学級経営や学校経営に結び付けていただければ幸いです。

★「教育講演会」の振り返りから

◆ 出来るだけ多くの振り返りを載せたいのですが、膨大な量になりますので、同じような内容については、抜粋や一部文章を接続するような形で表記させていただきます。

講演内容については、すべての学校から高評価をいただきました。あらためてご協力に感謝申し上げます。

- 脳の仕組みなど科学的な根拠を示しながら話をしていただき、子どものやる気を引き出すための手立てを知ることができた。
学級での活動や部活動で生かすことができる内容が多かったため、明日以降早速実践していきたいと感じた。
- やる気を引き出す**3つの法則**(**わくわくの願望・プラスの言動・誰かのために**)が自分の子育てや教育の中で実践できていたのかを振り返る良い機会となった。プラスの言葉がけで出力強化

- し、2学期からの実践に活かしていきたい。
- 逆境を乗り越えるために「ワクワクの願望」「プラスの言動」「誰かのために」の3点が大切だと分かった。校内では「誰かのために」頑張ることについて、賛否両論の意見が出た。
 - メンタル面の講演は初めてだったので、興味深く最後まで聞くことができました。改めて物の見方考え方等で人生は変わってくること、コントロールする力が必要であることを学びました。「やってよい努力」「やってはいけない努力」の努力にはワクワク感が必要であることは、授業や生活指導でも取り入れていきたいです。
 - 印象に残る（唱えやすい）フレーズが多々ありました。その言葉が前向きなので、脳的にも効果的なのだと思います。
「楽しいことしか続かない」や「やってはいけない努力」等、自分や子供たちの様子からもなるほどと思え、声かけ等活かしていきたいと思いました。
 - 潜在意識についてふだん意識したことがなかった。潜在意識というのは良くも悪くも、その人を形作っているのだなと感じる講演内容であった。
負の感情を抱いた時や逆境の時等は、意識して声のトーンを上げてみたり、表情を明るくしたり等でも違ってくことを教わったので、これから実践していこうと思う。
 - 潜在意識の書き換えや脳の仕組み等、やる気を引き出すためにどのようなことを意識すればよいか考えることができ、とてもよかったです。今後の子どもへの接し方や自分の仕事への取り組み方等に活かされる講演でとてもよかったです。
 - 人生をよりよく生きるための脳や言葉の使い方について、ユーモアを交えた楽しいお話に終始引き込まれました。「**大人が夢を持って生きる姿を見せることが大切**」、「**正しいことではなく『楽しいこと』しか続かないのが脳の仕組み**」、「**自分のためだけの夢や目標は限界を早くするが、絶対幸せにしたい『誰かのため』の夢や目標なら強い**」等、元気や希望を沢山くださった飯山先生に感謝しています。
 - 「**“誰かのため”の夢や目標は限界を超える力になる**」という言葉が印象に残った。子ども達が苦手なことやしんどいことにも前向きに頑張れるように、2学期以降は子どもも教師もプラスの動作・表情・言葉を意識していきたい。

- 心が「ばあっ！」と明るくなる講演会でした。「**夢実現ジャンケン**」は負けても勝っても心が晴れ晴れしました。つつい、マイナスなことについてさらにマイナスな言葉がけをしてしまいがちですが、明るい言葉がけをして子どもたちの「やる気」を引き出したいと思います。（早速我が子との会話で成果が見られました。）
- 今日の講演会は、学校の子供たち、家族、職場の同僚と関わる際、今後のためになることを教えていただきました。「**夢実現ジャンケン**」で負けているのに「**なんだか楽しい!**」という不思議な感覚を味わいました。入力じゃなく出力で言葉、動作、表情、行動を変えていき、楽しさを感じさせながら取り組めるようにしていく。
そして、自分のためだけでなく、「**誰かのためにする!**」ことがエネルギーに代わることも改めて確認することができました。今後、どんどん取り入れていきたいと思いました。
- 私たちの行動は脳からの指令であり、脳は感情と密接に連携しており、言葉で感情はコントロールできることが改めて分かった。マイナスの動作や言葉を吐くこともあるが、そのあと必ず前向きな表情・言葉でリセットして脳のデータを「**更新していく**」ことが大切だと分かった。自分自身の生き方としてとても貴重なお話でした。
- 自分の普段の考え方や感じ方を少しでも変えようと思ったら、行動する、声に出す、表情を作ることが必要であることを、理論的に知ることができてよかったです。
教師が前向きに雰囲気をつくることが大事であると思いました。やらされるではなく、やりたくなるという気持ちを引き出せるような手立てを行っていきたくと思いました。
- ★ 中村西中学校の先生方がたくさん質問していて自分事としてとらえている姿が素敵だった。
中学校の先生方には部活動もあるので、よかったのではないのでしょうか。

【 駐車場について 】

- 乗り合わせていけるように何台分か駐車場を確保してほしい。
- ※ しまんぴあに確保してほしいということだと思いますが、しまんぴあの使用規定として、利用団体が数多くある中で、特定のイベントや団体用として特別に確保することはできないことになっています。

- 南小からのピストン輸送をお願いしたい。
- ※ 教育委員会として、しまんとびあを利用する際、教職員のように限られた対象者の場合、シャトルバス等の運用は考えておりません。
駐車場係（補導センター、不登校児指導員、市教委事務局職員）は、炎天下の中で30分～40分対応しております。そういったこともご理解いただき、各校で乗り合わせや個々に暑さ対策等を工夫して徒歩でお願いしました。
- しまんとびあまで、各学校乗り合わせで行けるようにしてくれてよかった。というご意見もありました。
- しまんとびあが会場になる場合、市内で具同小職員の人数が多いこともあり、駐車場確保のためにも、具同小に送迎バスをお願いすることはできないでしょうか。
- ※ 上記に記載している南小からのピストン輸送依頼への回答の通りです。
- 受付は1階で行うとよい。2階から入って2階席に座れないというのは残念に感じる。1階にも入り口があるし1階席に座るのであれば、1階から入れるとよかった。
- ※ これもしまんとびあの利用規定の中で、しまんとホールを利用する場合、入場は2階から入り、1階へ降りる、3階へ上がる。ということになっています。今回2階席を使用しなかったのは、市内全教職員が座っても1階席だけで余裕をもって対応できたからです。
- 終了時刻で終わってもらいたい。しまんとびあまでの移動について、もう少し考慮していただきたい。
- ※ これは教育講演会当日の午前中に行われた夏季研修会の終了時刻のことではないかと思いますが、このことについては、各研究団体に午後の行事を踏まえて、終了時刻に配慮をお願いしてきました。結果として研究団体間で温度差があったのではないかと思います。
- 開始時刻が早くなればと・・・。
- ※ これは講演会の開始時刻のことだと思いますが、講師はこれまでも講演会当日に中村入りし

ています。

飯山さんを例にあげると、当日朝羽田から龍馬空港到着(8:55)→連絡バスで高知駅(11:49発の特急)→中村駅着(13:34)→(講演会)→中村駅(18:47発の特急)→高知泊

今回は例年よりも慌ただしかった感はありませんが、大体今年のような日程で開催されていますので、講師の事情によって変更はあるかもしれませんが、今後も講演会の日程に大きな変化はないように思います。

- 駐車場が中村小か中村中になればよいのでは。
- ※ 移動時間的には、南小からと中村小・中からとは大きな差はないように思います。午前中に中村小・中学校で、夏季研修会を開催する研究団体にとっては、そのまま中村小・中学校に駐車をして、乗り合わせか徒歩でしまんとびあへという案もありかなと思います。(南小学校も含めて)

【研修形態について】

- 教育講演会の意義は理解できるが、駐車場の問題、開始時間までに細かな休暇申請も必要になること等からも、リモートでの研修形態も検討してはどうでしょうか。
- ※ 休暇申請については、午前中から夏季研修会に参加する方、教育講演会から参加する方等々、一律ではないので各学校に判断をゆだねるしかありません。
また、リモート研修にということですが、教育委員会として、「組織総会」「教育講演会」「一校一役教育研究オール四万十実践交流発表会」等、**全教職員を対象にしているものについては、新型コロナ感染拡大等、特段の事情がない限り「対面式」で開催する旨を校長会でも確認しております。**それぞれ年1回の開催です。一堂に会して生の声を聴きながら実践に学ぶところに大きな意義があると思います。
リモートを否定するものではありませんが、**「ながら研修会や講演会」**になることも危惧されます。講師の事情でリモートになる場合もあるかもしれませんが、その際も、聴衆側はしまんとびあ等に会して拝聴することになるかもしれません。

【 期日について 】

- 期日について検討の余地があれば、8月ではなく7月下旬の実施でもよいのでは。
- ※ 一昨年度までは、7月最後の週の金曜日を位置付けていましたが、昨年度から「**四万十市人権教育研究大会**」がその後の日程の都合で早めに開催したいということもあり、入れ替えて8月最初の週の金曜日ということになりました。
もちろん講師の都合で変更になることは想定されますが、早くすると中学校の「**総体**」との関係、8月第1週よりずれ込むと「**学校閉庁日**」や「**研修会等を設定しない期間**」に入るということで、期日については本年度と同じ開催になってきます。
ちなみに、会場の予約に関しては、1年以上前からの申し込みになっていますので、本年度の期日を申請した段階で、次年度についても予約している状況です。

【 希望する講師及び講演内容について 】

- ◆ 高知大学是永先生
- ◆ 菊池省三先生 (ほめ言葉のシャワー、成長ノート、白い黒板) 等、独自の教育実践家
- ◆ 石堂裕先生 (兵庫県たつの市龍野小教頭、学級経営、生活・総合)
- ◆ 樋口万太郎さん (中部大学 現代教育学、一人一台端末の活用)
- ◆ 安住紳一郎アナウンサー
- ◆ 橋下徹さん (元大阪府知事、元大阪市長)
- ◆ 辛坊治郎さん (ジャーナリスト、You tube 辛坊の旅) 等で情報発信中
- ◆ 渡辺道治さん (小学校教員、福祉施設での演奏活動、ユネスコや JICA による国際交流事業や教育支援に携わる) (2校)
- ◆ 岡田倫代先生 (高知大学教職大学、児童理解、児童を正確に見取るアセスメントの視点等)
- ◆ 河田祥司先生 (高松市総合教育センター、ICT 活用のメリット、総合的な学習の時間の单元構想の作り方)
- ◆ 伊藤羊一さん (Z アカデミア学長)
- ◆ 井村雅代さん (アーティスティックスイミング日本代表指導者)
- ◆ 坪田信貴さん (ビリギャル&カジサックの生みの親)

- ◆ 原清治さん (仏教大学教授)
- ◆ 清原泰治さん (周南公立大学教授、2024 年 3 月まで高知県立大学地域教育研究センター長)
- ◆ 大久保暁さん (LGBTQ について、kanko 学生服がとりもってくれる)
- ◆ 後野文雄さん (国立舞鶴工業高等専門学校 特命教授、特別支援教育スーパーバイザー、医療科学の視点と教育的視点の両面から問いかける)
- ◆ 岡田武史さん (FC 今治高校里山校学園長 元サッカー日本代表監督)
- ◆ 中村文昭さん (教師が元気になりやる気につながる内容)
- ◆ 鳴川哲也先生 (福島大学教授、先日の校長・教頭会でお聞きした) (2校)
- ◆ 齋藤孝教授 (教育学者、人間関係をつくるコミュニケーション力)
- ◆ 坂本良晶さん (CanvaEducation シェアマネージャー、教育 DX、教員の働き方改革)
- ◆ 品川裕香さん (エビデンスに基づく特別支援教育)
- ◆ 中野信子さん (脳科学に基づく人の生き方)
- ◇ メンタルスキルなど学べる飯山さんのような方 (2校)
- ◇ 「働き方改革推進校」の実践や取り組みをしてもらえる方
- ◇ 「教育 DX」「chat gpt」等について
- ◇ 本年度のように日々の生活や教育活動に実践化できて、してみたいと思わせてくれるような具体的な内容を聞きたい。
- ◇ LGBTQ、働き方改革の実践例等
- ◇ 学校づくりについて
- ◇ 今年度と同様の内容で、さらに別の講師